

# 自然薯で育む郷土愛

## …40年の時を超えて今…



2021.4.21 5,6年生が自然薯を植えました。



発行所  
常磐南小学校  
電話 46-2005  
FAX 46-2048  
— 第13号 —  
2021.5.31

### ■40年前の常南タイム

〇〇〇校長が赴任して、野山を駆け回る常南タイムがスタートした。野鳥観察や水辺の生き物など、幅広い自然観察活動が始まったと聞いている。

完成した  
自然薯畑



以来、校長先生を筆頭に、PTAと子どもたちが山の中に入る活動が始まった。目的はもっぱら自然薯。山という山を歩き回り、ありったけの自然薯を探し当てた。しばらくすると、案の定、山の持ち主から苦情が入った。「今度来た校長が山に入つて、勝手に自然薯を採つてる。二度と、山に入つてはならん！」お叱りを受けたのは、校長先生と〇〇さん。しかし、ただでは転ばぬ2人。熟慮を重ね妙案を思いついた。

### 自然薯誕生物語

じねんじょ

2021.5.31

まさか、だまされるのは…

校長 都筑祐一



昭和54年。話はかれこれ40年以上も前にさかのぼる。常磐南小学校に、〇〇〇〇という〇〇〇出身の校長先生が赴任された。校長先生は、常南の豊かな山にたいそう感動され、こう話された。「なんだ、山に住んどのあんたらは、山の中に何があるのか知らんのか。食べれるもんもあるし、野鳥もいっぱいおる。鳴き声で鳥の名前も言えんようじゃあ、困ったもんだ」ご指導を受けたのは当時のPTA会長、〇〇〇〇さんだった。

「だったら学校で作つてしまえばいい。〇〇〇に自然薯を作つるところがあるらしい。そこへ行つて、作り方を教えてもらおう」2人は希望を胸に〇〇〇へ向かった。すると、思いのほか親切に教えてもらうことができた。さっそく栽培用のパイプを買い込み、学校の空き地を耕し、みんなで種芋を植えた。そして時は流れ、収穫の秋を迎えた。ところが、「ムゥ……これは自然薯じゃない。長芋だ。もしや……だまされたのか……?」掘り起こした芋は、真正正銘の長芋。まんまと騙されてしまったのだ。令和3年4月21日。今年も〇〇〇〇〇〇さんを講師に招き、自然薯の植え付けを行った。子どもたちの様子を見守りながら、自然薯を手掛けた当時の思い出を笑いながら話してくださった。今や常南ブランドになった自然薯。全国見渡しても、学校で自然薯を育て、とろろご飯でいただく学校はまれだろう。常南の強みは、地域の力。自然薯にお米。野菜もカブトムシもザリガニも、すべて子どもたちの心をとらえて離さない。ふるさと常南。いくつになっても忘れられない思い出がよみがえる街。支えてくださる皆さんに心から感謝。